

平成24年度事業実施報告書

はじめに

平成24年度は一昨年3月に発生しました東日本大震災の被災体験を教訓に（公社）全国学校栄養士協議会と共同で児童・生徒を対象とした災害時の学校給食用非常食開発に取り組み、当協会協力会員からの提案を基に双方検討を重ねた結果、候補の一つが全学栄製品として製品化の目処が付きしました。

次に、学校給食用脱脂粉乳事業では原料価格の値下がりや輸送費等の合理化努力により安定した価格と供給を維持出来ました。尚、平成23年度の事業推進委員会で決定された被災地支援は今年度実施いたしました。

また、栄養教諭や都道府県学校給食会の全国各ブロック代表をメンバーに据えた「学校給食普及改善委員会」は2回の諮問会議を持ち、現在の学校給食現場における取組内容や課題などについて意見交換することにより、当協会の公益活動の諮問機関としての役割を果たしました。

更に、食育推進の基盤活動である調理講習会および親子料理教室も（公社）全国学校栄養士協議会の協力を得て開催し、特に親子料理教室は開催県数・参加者とも過去最大となりました。

最後に、公益法人として本年度は2年目を迎え、被災地支援も含めた公益活動を通して、当協会の運営理念の具現化に寄与できたものと確信いたします。

詳細について、以下のとおり報告いたします。

公1 食育推進事業

I. 食育の推進に関する活動

1. 普及活動

1) 調理講習会

開催 25 県 32 か所 参加者 1,130 名（H23 実績 28 県 33 か所 参加者 1,328 名）

実施状況及び実施報告は別紙の通りです。

2) 親子料理教室

開催 28 県 107 か所 参加者 4,353 名（H23 実績 23 県 86 か所 参加者 3,597 名）

実施状況及び実施報告は別紙の通りです。

3) 講師の紹介及び派遣

（公社）全国学校栄養士協議会や（公財）都道府県学校給食会等からの要請により研修会や調理講習会等に講師の紹介及び講師を派遣しました。

○講演講師の紹介

<講師> 早稲田大学大学院 総合研究機構 研究院教授 福岡秀興氏

テーマ 「本人及び次世代の健康は成長期の食習慣にあり

「若年女性のやせと生活習慣病対策」(平成24年8月2日)

主催 兵庫県学校給食・食育支援センター 参加者 200名

会場 姫路市文化センター

<講師> 東京医科大学 兼任教授 中村明子氏

テーマ 「学校給食の衛生管理」(平成24年8月3日)

主催 愛媛県学校栄養士協議会 参加者 160名

会場 エスポワール愛媛文教会館

<講師> 生活協同組合コープこうべ 商品検査センター長 古山みゆき氏

テーマ 「放射能汚染と食品の安全性について」(平成24年8月24日)

主催 兵庫県学校栄養士協議会 参加者 54名

会場 兵庫県学校給食・食育支援センター

<講師> 淑徳大学 客員教授 田中延子氏

テーマ 「学校における食育の推進と栄養教諭の役割」(平成24年10月25日)

主催 山梨県公立学校食育推進研究会 参加者 120名

会場 山梨県男女共同参画推進センター(ぴゅあ総合)

○調理講習会の講師として派遣

<講師> フードコーディネーター・調理師 春名亜希

北海道(十勝)、千葉県(2回)、群馬県、東京都、宮城県

<講師> 管理栄養士 山本晶子

佐賀県、新潟県、神奈川県、和歌山県

<講師> 管理栄養士 平川 愛

青森県

<講師> 管理栄養士 浜口一美

兵庫県、北海道(札幌)、熊本県

<講師> 管理栄養士 中野はるか

沖縄県、秋田県

<講師> 管理栄養士 久保幸代

島根県

4) 紙芝居の制作

過去に制作された食育の紙芝居(8話)を電子データとして取り込み、内容を見直しました。

平成25年度に編集作業を進め、復刻版の完成を目指します。

2. 広報活動

1) 機関情報紙「すこやか情報便」の発行

本機関紙は、学校給食関係者への学校給食及び食育に関する情報を提供する情報紙です。発刊後、「各種講習会や講演で配布したい」「(行政や教育現場で)資料として利用したい」との要望も寄せられ、都度送付して活用いただいています。平成24年度は2回発行しました。

○「すこやか情報便」第13号(平成24年9月20日発行)

日本の将来が危ない！中学生の栄養摂取不足

～児童生徒の食事状況等調査結果からみえた学校給食を通じた食育の重要性について～

「一生を通して最も栄養分を必要とし、また生涯にわたって必要とされるほとんどの栄養素が体内に吸収される重要な成長期にある特に女子中学生が、実は十分な食事を摂取しておらず、それが次世代にも深刻な影響を及ぼす」という事実を紙上で紹介し、教育にかかわる全ての方々、とりわけ保護者が知り、社会に認知されることによって、子どもたちの健康がまもられ、心身ともに健やかに成長していくことを願って発信しました。

<座談メンバー> (50音順)

文部科学省 スポーツ・青少年局 学校給食調査官	江口陽子氏
長崎市立三和中学校 栄養教諭	高西美穂子氏
東京都立広尾病院 小児科部長	原 光彦氏
早稲田大学総合研究機構 研究院教授	福岡秀興氏

<コーディネーター>

淑徳大学 客員教授	田中延子氏
-----------	-------

○「すこやか情報便」第14号(平成25年3月25日発行)

あの日から2年 ～震災の体験を風化させないために～

『学校給食従事者(栄養教諭・学校栄養職員、調理員)の担った役割』

昨年8月に開催された「平成24年度食の安全に関する調理員講習会」と「第53回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会」において、東日本大震災時における学校給食関係者の果たした役割をテーマに発表会が開催されました。衛生管理や調理技術・知識等を駆使して取り組まれた貴重な体験を忘れることなく、不測の事態に備え、今後活かされるよう体験談を紙面に再現しました。

・平成24年度食の安全に関する調理員講習会

<発表者> (発表順)

宮城県 塩竈市立杉の入小学校	技術主査	長江由加利氏
福島市立福島第一小学校	技能主査	三浦昭夫氏
公益財団法人岩手県学校給食会	常務理事	切金 精氏
<コーディネーター>		
淑徳大学 客員教授		田中延子氏

・平成 24 年度全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会

<発表者> (発表順)

岩手県 山田町立大浦小学校	栄養教諭	刈屋保子氏
宮城県 気仙沼市立新月中学校	栄養教諭	村上鮎美氏
福島県 南相馬市教育委員会	主任栄養士	鈴木美智代氏
<コーディネーター>		
文部科学省スポーツ・青少年局	学校給食調査官	江口陽子氏

2) 改善協会ニュースレター

本年度も新聞記事等最新のニュースをお役立ち情報として、10 回配信しました。

3) 学校給食・食育をテーマとした絵画展示

下記大会に絵画作品を展示し食育の推進に努めました。食育推進全国大会では学校給食関係者以外の一般の方々にも絵画を通して広く学校給食の現状や食育の普及に努めました。

- (1) 第 7 回食育推進全国大会 (6 月 16~17 日 於：神奈川県横浜市)
- (2) 第 53 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会 (8 月 7~8 日 於：東京都)
- (3) フードシステムソリューション 2012 (9 月 19~21 日 於：東京ビッグサイト)
- (4) 第 63 回全国学校給食研究協議大会 (11 月 15~16 日 於：大分県大分市)
- (5) 平成 24 年度学校給食フェア (1 月 24~30 日 於：文部科学省旧庁舎情報ラウンジ)

II. 学校給食事業に関する助成

下記の団体に対し事業運営費の助成を行いました。

1. (公社) 全国学校栄養士協議会 (会長 長島美保子)
2. 日本学校調理師会 (会長 山本五十六)

～「平成 24 年度食の安全に関する調理員講習会」～

(平成 24 年 8 月 2~3 日 昭和女子大 人見記念講堂)

3. 「食と次世代健康研究会」(代表幹事 福岡秀興)

Ⅲ. 学校給食の状況に関する調査研究等の活動

1. 学校給食・学校における食育に関する絵画募集

平成 16 年より始まった隔年実施の本事業も第 5 回目を迎えましたが、応募数が年々減少傾向にあり本年度は 3,121 点（平成 22 年度 6,119 点）に止まりました。また、初めて表彰式を単独で実施しました。応募数の減少については検証すると共に事業継続の是非については事業目的を明確にして検討することになりました。

2. 給食関係者等との連携強化

1) モニター制度の継続

平成 12 年度より始まった品質等調査研究員（モニター）制度（任期 2 年）は、（公社）全国学校栄養士協議会の協力を得て、47 都道府県の栄養教諭・学校栄養職員の中からモニターに就いていただき、学校給食の食材等に関する意見や提言を受ける制度です。今期（平成 24 年 4 月～平成 26 年 3 月）で 7 回目を迎えました。7 回目の初年度（平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月）の実績は 212 件です。尚、前年同期（平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月）の実績は 112 件でした。

2) 学校給食普及改善委員会

全国の栄養教諭および各県学校給食会の代表者 15 名を当該委員会の推進委員に委嘱し、活動として、第 1 回目の委員会を平成 23 年 12 月 10 日、第 2 回目を平成 24 年 12 月 15 日に開催し、推進委員との情報交換により当協会の活動への理解が深まり、諮問委員会としての一定の役割を果たしました。

Ⅳ. 給食物資に関する調査研究並びに供給

1. 学校給食用優良食品開発研究

（公社）全国学校栄養士協議会と共同で「災害時の学校給食用非常食の開発」に取り組み、当協会協力会員企業 2 社から提案のあった商品を基に継続検討中。

また、学校給食摂取基準に定められた亜鉛の摂取のため、多くの学校給食において、あさりを使用されています。しかし、日本のあさりの自給率は 40% であり、残りは韓国や中国から輸入されています。「中国産は、農薬が心配」という栄養教諭・学校栄養職員の意見も多々あることから、平成 24 年 7 月学校給食で多く使われていておいしいと評判の『おいしいあさり』の製造工場「鴻風食品有限公司」（中華人民共和国 遼寧省東港市）に栄養教諭や当協会理事からなる視察団を派遣し、衛生管理等に関する調査を行い、日本企業による高度な指導のもと、「徹底した衛生管理」「農薬汚染の排除」「異物除去」など安全安心を担保される点を確認しました。

2. 全学栄製品・全学栄すいせん製品の認定業務

本年度は5件の全学栄すいせん製品につき、加工先等の変更があり（公社）全国学校栄養士協議会の承認を得ました。（承認順）

- ・全学栄すいせん製品「プルーン」（㈱イシハラ）
業務拡大による製造工場変更（㈱ヤスエから㈱水野商店）
- ・全学栄すいせん製品「給食用毎日骨太 MBP チーズキャッチ」（雪印メグミルク）
カルシウム強化のための原材料配合変更と包装デザイン変更
- ・全学栄すいせん製品「減圧殺菌乾燥しいたけ加工スライス VD-1000」（八尋産業）
放射能汚染による原木産地（日本以外に、ベトナム・台湾）の追加
- ・全学栄すいせん製品「沖縄パインゼリー」（明治）
需要増による生産対応のため、生産委託先の変更
（埼玉県 さくらフーズ社から佐賀県 丸きんまんじゅう社）
- ・全学栄すいせん製品「プルーン」（サッポロ巻本舗）
包装規格と製法変更により製品保管条件が改善され、それに伴う製造者の変更

また、「全学栄すいせん製品 製造工場認定基準」による製造工場視察を行いました。

- ・株式会社 水野商店「プルーン」（平成24年6月28日）
- ・株式会社 丸きんまんじゅう（明治）「沖縄パインゼリー」（平成24年7月20日）
- ・株式会社 サッポロ巻本舗「プルーン」（平成25年1月29日）

*全学栄製品・全学栄すいせん製品一覧表をリニューアルし、調理講習会、第6回食育推進全国大会、第53回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会、及び第63回全国学校給食研究協議大会において約2,500部配布し、全学栄製品・全学栄すいせん製品の普及に努めました。

3. 学校給食用脱脂粉乳供給事業

東日本大震災による被災地支援として、被災地3県（岩手・宮城・福島各県）に対し、各県学校給食会を通して脱脂粉乳の売り渡し価格を調整することにより具体的支援に繋がりました。

また、平成23年度は震災の影響による学校給食用パンの使用頻度が増加しましたが、本年度は元の状態に戻ったこともあり、売渡数量は前年比98%の実績となりました。

V. その他

1. 中期3カ年計画の策定

収入面の安定を図ることが先決のため、策定は延期しました。

2. 寄附募集の拡充

公益法人としての寄附を受け易い環境特性を生かし、絵画募集事業に対する特別協賛として、多くの団体や企業から支援をいただきました。また、すこやか情報便や絵画入賞作品集を個人の寄附者に送付することにより、個人の寄附者も多数募ることが出来ました。

公2 国産食肉需要構造改善対策事業

(独)農畜産業振興機構の公募事業である「国産食肉需要構造改善対策事業」は応募を辞退しました。